

# 行き場のない命に新たな出会いを繋ぐ活動

保護猫&ドッグラン『さばいでい』は犬猫の殺処分0を目指しています。行き場のないペットたちを一時シェルターで保護し、新たな家族との出逢いのきっかけを作る取り組みを精力的に行っているほか、手作りのグッズ販売の売り上げを保護猫・犬の救援活動費に充てています。

## 【活動背景】

少子高齢化の進んだ地域では、飼い主の身体的・経済的な問題などにより多頭飼育崩壊が頻繁に発生している一方で、行政では対応しきれていないのが現状です。保護猫&ドッグラン『さばいでい』では、そうした犬猫の保護活動費は募金やボランティアの方々の自費により支えられていました。しかし、保健所や行政が対応できない案件の多くを本団体が引き受けるという事例が例年続いており、活動を継続していくためには、人員および資金不足が喫緊の課題です。



## 保護猫&ドッグラン『さばいでい』



## 【助成金の用途・活動結果】

助成金は、シェルターの設備修繕および改修工事に活用されました。故障していた換気扇が新調されたほか、老朽化していた断熱材や壁床を改修されました。また、寒い冬に備えてストーブも設置しました。保護猫たちの生活環境が改善されただけでなく、ボランティアの方々のお世話も行いやすくなり、見学に来た譲渡希望者にもゆっくりと滞在してもらうことができるようになりました。



## 【団体からのメッセージ】

札幌と旭川の大都市のちょうど中間にある空知地方は過疎化や高齢化が進み、適正飼育がされない事による多頭飼育崩壊案件の発生数が都市よりも多い傾向にあります。年に数件の案件対応で数十匹の保護をしており、行政や他団体に断られたコたちの最終受け入れをせざるをえず、ハウスのキャパオーバーで施設のダメージも非常に大きく、猫たちの管理も行き届いていない状況です。そのような中で、財団からのご支援でハウスの修繕を行う事が出来き、寒さ対策、衛生管理が改善出来ました。保護を必要とする命は待った無しの状況であり、愛護団体に保護頭数の規制をかける事よりも、適正飼育数の啓蒙により蛇口をしめ、保護しなければならない命の絶対数を減らす努力を行政には求めたい。その上で、現状保護の必要な命全てがこぼれ落ちる事のないよう、行政や愛護団体が連携しながら積極的に保護していく姿勢の強化を求めています。懸命に生きている小さな命が、幸せに生きられる未来を掴むために、引き継ぎ頑張っていきたいと思えます。

## 【活動目的】

例年の受け入れ数の増加に伴い、シェルターが過密化していることに加え、建物や設備の老朽化も進んでいました。しかし本団体は、避妊・去勢手術、ワクチン、駆虫など、適切な譲渡のための医療処置も実施しているため、シェルターの改修に十分な資金が不足している状況です。保護されている犬猫たちが快適に過ごせるように、シェルターの改修が必要でした。